

## 島田市議会 議会だより編集に関する特別委員会行政視察報告

議会だより編集に関する特別委員会委員長 桜井 洋子

当特別委員会は、「市民に読みやすく、分かりやすく、親しみやすい」議会だよりをめざし、平成27年8月5日から6日にかけて、広島県廿日市市議会と兵庫県三田市議会を訪問し視察研修を実施しました。次のとおり報告します。

### 【第1日】平成27年8月5日（水）

広島県廿日市市役所 議会棟2階 委員会室

調査事項 「議会だよりのリニューアルについて」

8月5日に視察した広島県廿日市市は、広島市の西隣に位置しています。平成15年と17年の2度合併を行ったことで市域を拡大した、人口約12万人の市です。

廿日市市議会だより「さくら」は、東京都あきる野市の議会だより「ギカイの時間」をTTP（徹底的にパクリ）することを実行しリニューアルを行いました。昨年度、本委員会もあきる野市を視察しましたが、廿日市市議会も平成25年度に同市を視察し、結果1年足らずでリニューアルを実現しました。そのスピード感にまず感銘を受けました

「さくら」へリニューアルした理由について伺ったところ、「議会に関心を持たない人たちに興味を持ってもらう必要性があった」のことで、議会改革の一翼を担う試みでした。合併以後市議会だよりは廃されていたそうですが、旧佐伯町が町村議会コンクールで最優秀賞を獲得していたこともあり、やはり発行すべきであると再スタートしたとのことでした。

編集は特別委員会が担当し、各会派から委員が選ばれているが、どちらかというと会派の中で若い、または議員歴が浅い議員が担当する傾向があり、積極的な理由とは言えないようでした。しかしながら、会派に担当委員がいることで、リニューアルや原稿の書き方などの作業面で非常に話が通りやすくメリットになっているそうです。

しかし、議員もプロではなく、デザインまで担当することが大きな負担になっていたことと、部分的なデザインに凝ったらデザインの全体がおかしくなってしまったため、あきる野市方式を模倣し、決まったフォーマットに「あてはめる」作業まで落とし込みを行うことで議員の負担軽減に成功し、「これが最大のメリット」と感じているとのことでした。

字数が少なくなっただけで一部の議員から批判を受けたものの会派を通してなんとか収めてもらったそうで、「すべての希望を叶えることはできないし、不満を持たれても仕方がない」と割り切ってリニューアルを進めたようです。

アンケートをとってはいないものの、市民の反応は確実にあり好評とのことではあったが、「中身が薄くなった」という人もいる（特に、きっちり読んでいた市民）とのことでした。

## 【第2日】平成27年8月6日（木）

### 兵庫県三田市市役所 委員会室

#### 調査事項 「議会だよりのリニューアルについて」

8月6日に視察した兵庫県三田市は、六甲山をはさみ神戸市の北隣に位置しています。神戸市、大阪市への通勤圏であることからベッドタウンとして発展を続けてきた人口約11万4千人の市です。

議会だよりのリニューアルについて伺うため事前に質問事項を送付したところ、当日、その質問に沿った詳細な資料と議会事務局職員からの説明がありました。

三田市の議会広報は、以前はタブロイド版であったため非常に読みにくいものであったそうです（市の広報紙は現在もタブロイド版）。その後、2回目のリニューアルをして現在のスタイルになったとの説明がありました。

三田市の議会広報が目立つ理由のひとつが「横書き」ですが、その理由は「若い人に抵抗がないのは横書きだから」でありました。「若い人に読んでもらい、関心を持ってもらいたい」ことがリニューアルの大きな要因であったようです。

三田市の特徴は、予算を印刷製本費ではなく委託費で計上することにより、印刷会社のデザイナーとも協力体制ができていることと、年8回発行で頻繁に発行を行うことで存在感を出している（ただし、1回当たりのページ数は減）ことと思われました。

最後のページにクイズを載せ、回答者に感想を書き添えてもらうことで反応をみているそうですが、子どもの読者も少なくないとのこと。

リニューアルを快く思わない議員もいたようですが、こちらでも会派を通した説明をすることでなんとか収めているという説明もありました。なによりも市民目線が大事であるという考え方で通しているようです。

## 【視察研修を終えて】

昨年のある野市議会に続き、今年もリニューアルに取り組んだ2市を訪問した議会だよりの編集に関する視察研修は、島田市の今後の議会だよりの編集に具体的な指針を設ける必要性和その具現化について示唆を与えるものとなりました。

- ① 若い人に読んでもらえる紙面が、結局は世代を問わずに読みやすくなる
- ② 読みやすい紙面づくり（写真、イラスト、文字数等の統一、全体のデザインの統一）
- ③ 記事の内容（議案審議、一般質問、議案の内容）をよりわかり易くすること。読んで理解できる言葉づかいにすること。中学生が読める程度。
- ④ 全議員の賛意を得られなくとも、市民の目線を大切にすること。会派で説得をするなど工夫が必要。

など、当特別委員会で検討し、今後の方針を提示していきたいと考えます。